



いずみさの昔と今 第239回

「大坂の陣と泉州・紀北」榎井合戦への道③

慶長20年4月29日、豊臣軍（大坂の陣）の先鋒の塙団右衛門の軍勢（2百〜3百人）は熊野街道を進み、午前8時ごろ、安松の八丁畷（熊野街道が直線道になるところ）で、徳川軍の浅野長晟の軍勢（約5千人）と戦闘を始めました。これが榎井合戦です。

榎井合戦は数で劣る豊臣軍が攻め、数で優る浅野軍が守るといふ戦いでした。浅野軍の先鋒を指揮した亀田大隅は、塙団右衛門の軍勢に鉄砲で応戦しながら榎井の村に退きます。やがて榎井の村中で両軍の武士が入り乱れる戦いになりました。

豊臣軍の岡部大学は側面から浅野軍を攻めますが、敗れて退却しました。信達の浅野家本陣は榎井に軍勢を繰り出しましたが、岸和田城を攻めて貝塚に布陣していた大野治房の軍勢（数千人）は榎井合戦の応援に動かず、塙団右衛門の軍勢は榎井で孤立しました。

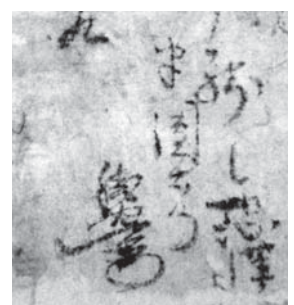
こうして浅野軍が優勢となり、豊臣軍は塙団右衛門・淡輪六郎兵衛重政ら12人もの武将が討ち

取られ、合戦は正午ごろ終わりました。同じ日、徳川軍の四国の諸大名の軍勢が深日（岬町）に上陸しました。大野治房軍は不利となり大坂城に撤退しました。徳川軍を和泉国内で退けるといふ豊臣軍の戦略は失敗し、和泉国内での戦いは榎井合戦で終わりました。徳川軍は大坂城に攻め寄せ、5月6・7日の決戦で豊臣軍を破り、7日に大坂城は落城、8日には豊臣秀頼・淀君が自害し、豊臣家は滅びました。浅野軍は和歌山に戻り、5月中には紀伊国内の一揆を平定しました。大坂の陣で一揆が起こったのは紀伊国だけです。紀伊山口（和歌山市）で一揆を起こした山口喜内は滅ぼされ、奥熊野の北山（三重県熊野市）の一揆の人々は処刑されました。

静にうかがっていました。しかしこのような塙団右衛門でさえ、勝ち目の乏しい大坂夏の陣・榎井合戦では討ち死にを覚悟して出陣したと言われています。戦場となった榎井・安松の人々は家や村を焼かれ、合戦から身を守らねばなりませんでした。榎井では浅野・豊臣の両軍の武士が村の家屋を占拠して戦ったのでしよう。榎井の人々は山手に逃れたと思われま。

佐野・中庄の人々は大坂冬の陣の頃から徳川軍につきましました。佐野村の庄屋藤田家・吉田家は、浅野軍に書状を送っており、合戦直後の5月1日に浅野長晟から感謝の書状をもらっています。中庄村の代官新川家も合戦後に亀田大隅から書状をもらっています。

和泉国の村や町の人々は、徳川軍が勝つと見て豊臣軍を一揆の企てに味方しませんでした。合戦がいち早く終わることを願っていました。豊臣軍が榎井



▲塙団右衛門の書状の自署「半団右衛門 勝忠」と花押

特別展講演会「大坂の陣と泉州・紀北～榎井合戦への道～」
 大坂の陣（冬・夏）の展開と、榎井合戦に至る経緯について話します。
日時 11月15日(日) 午後1時30分～3時
定員 40人（先着順）
講師 森 昌俊（レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの学芸員）
資料代 300円
場所・申込・問合せ 11月3日(祝)以降にレイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさのへ
 ※特別展の展示解説も行います。



合戦で敗れた一因には、浅野軍のように村や町の人々の協力を得られなかったという事情もありました。
 ここで紹介した塙団右衛門・浅野長晟・亀田大隅の書状は、特別展「大坂の陣と泉州・紀北」榎井合戦への道」で展示しています。

絵図ウォーカー「榎井古戦場に行く」
日時 11月19日(木) 午後1時30分～4時
集合・解散場所 JR「長滝」駅
定員 30人（先着順）
案内 森 昌俊（レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの学芸員）
資料代 100円
申込・問合せ 11月3日(祝)以降にレイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさのへ
 ※小雨決行



レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
 ☎469-7140
 Fax469-7141
休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）、祝日の翌日（土・日曜日除く）
開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
入館料 無料